

## 平成 30 年度(2018)アサンプション国際小学校 学校評価報告書

### 1. めざす学校像

教育目標:「心身ともに、すこやかで愛に生きる子

～進んで学ぶ子、強く生きる子、神と人を愛する子～

#### 1. 進んで学ぶ子

- (1) 基礎的・基本的学力を身につける
- (2) 自分で考え判断する
- (3) 自分の考えを表現し、分かち合う

#### 2. 強く生きる子

- (1) 基本的な生活習慣を身につける
- (2) 強い心と体をつくる
- (3) 責任を持ち、自主的に行動する

#### 3. 神と人を愛する子

- (1) 自分の良さや人の良さを認める
- (2) 思いやりを持ち、友だちを大切にする
- (3) 感謝の気持ちをもって喜んで働く
- (4) 自然を大切にする

### 2. 2018事業計画

#### 2018 年度テーマ:「分かち合い」(2017 継続)

〈教育改革を新 1 年生だけのこととせず、各学年で「改革の成果を分かち合う」〉

〈各教員、学院の各園校と保護者がそれぞれの役割・課題を分かち合う〉

〈「国際平和に貢献する人」を目指してカトリックの「分かち合い」思想を徹底〉

#### 1. 重点課題

- ① 授業力向上に向けた「分かち合い」→教職員の一致団結(大幅入れ替え、組織力)
- ② 英語力強化に向けた「分かち合い」→特にイマージョン教育の全校的展開
- ③ 学院的課題に向けた「分かち合い」→2019 募集 100 名必達スケジュール作り
- ④ 幼・中高教職員間の「分かち合い」→教員の相互補完、内部進学一層の向上
- ⑤ 宗教教育再生・教科「分かち合い」→カトリック校に相応しい連携体制作り

#### 2. 具体的な取り組み

##### (1) 授業力向上

- ① 研究研修体制→新任教員(1~3 年程度)研修励行
- ② 分掌連絡会の活性→個人プレーから組織プレーに
- ③ メンバー新→教員の一致団結(開かれた組織作り)

##### (2) 英語力(イマージョン)強化

- ① イマージョン・スタッフ強化→中高との一層の連携強化
- ② イマージョン授業の全学年への拡大
- ③ 低学年イマージョン手法の確立

##### (3) 学院的課題→募集大増強(100 名必達)

- ① 説明会手法の見直し強化
- ② 英語幼稚園・学習塾との連携強化
- ③ 入学試験の抜本的見直し

##### (4) 幼・中高教職員との連携強化

- ① 幼稚園→小学校入試のあり方
- ② 小学校→中学校入試のあり方
- ③ 教員交流促進→まずイマージョン、ネイティブ交流から

##### (5) 宗教教育再生・教科

- ① 学院全体の宗教委員会の立ち上げ、教科
- ② 宗教の時間への教員の参画
- ③ 教員に対する宗教教育(チャプレン就任により)

【自己評価アンケートの結果と分析】（2019年1月実施）

保護者アンケート
<p>&lt;集計結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「建学の精神を伝える努力」は肯定 86%、否定 11%、無回答 3%。</li> <li>・「楽しく登校」は肯定 93%、否定 4%、無回答 3%。</li> <li>・「授業の落ち着き」は肯定 78%、否定 13%、無回答 9%。</li> <li>・「こどもの成長」は 80%、否定 15%、無回答 5%。</li> <li>・「学力向上への教科指導」は肯定 77%、否定 18%、無回答 5%。</li> <li>・「新しい教育への努力」は肯定 78%、否定 13%、無回答 9%。</li> <li>・「子供たちの声に耳を？」は肯定 80%、否定 15%、無回答 5%。</li> <li>・「健康管理、安全管理」は肯定 87%、否定 8%、無回答 5%。</li> <li>・「ブログ等学校の情報発信」は肯定 88%、否定 7%、無回答 5%。</li> <li>・「学院併設校との連携」は肯定 44%、否定 51%、無回答 5%。</li> </ul> <p>&lt;個別の意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の保護者からは、両コースの有り方や授業や宿題についての意見が多い。</li> <li>・学校生活や言葉遣い、躰についての意見が多い。</li> <li>・宗教教育や活動時間の増加を望む意見が多い。</li> <li>・英語教育について、賛否とも意見が多い。</li> <li>・教員の入れ替わりへの不満やそれに伴う学校全体を危惧する意見がある。</li> <li>・幼稚園や中高との交流や連携を望む意見がある。</li> </ul>
教員アンケート
<p>&lt;集計結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「建学の精神の教員・児童への浸透度」は肯定 82%、どちらともいえない 18%、否定ゼロ。</li> <li>・「基礎学力定着努力」は肯定 88%、どちらともいえないが 6%、無回答 6%、否定ゼロ。</li> <li>・「公平な指導、人権尊重」は肯定 94%、無回答 6%、否定ゼロ。</li> <li>・「児童の生活環境把握」は肯定 82%、どちらともいえない 6%、無回答 12%、否定ゼロ。</li> <li>・「健康安全配慮」は肯定 94%、無回答 6%、否定ゼロ。</li> <li>・「ICT 教育」は肯定 70%、どちらともいえない 12%、否定 12%、無回答 6%。</li> <li>・「英語教育、国際教育」は肯定 88%、どちらともいえない 6%、無回答 6%、否定ゼロ。</li> <li>・「総合的な学習、特色ある教育活動」は肯定 82%、どちらともいえない 18%。否定ゼロ。</li> <li>・「教員間の連携、協力」が肯定 68%、どちらともいえない 18%、無回答 12%、否定ゼロ。</li> <li>・「中高との連携」は肯定 12%、どちらともいえない 44%、否定 44%。</li> <li>・「幼稚園との連携」は肯定 12%、どちらともいえない 44%、否定 44%。</li> <li>・「父母の会、保護者との連携」は肯定 68%、どちらともいえない 26%、無回答 6%、否定ゼロ。</li> </ul> <p>&lt;個別の意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科研究や検討会、ICT 研修の頻度を増やし、授業をより良くしたい。</li> </ul>
分析
<p>保護者アンケートの結果から、学校改革への取組みが一定評価され今後の期待が寄せられる一方で、一部の保護者がコースの有り方や方針について不安を感じていることが分かった。また、言葉遣いや躰などについて、これまでの伝統を引き継ぎ、全教職員がカトリック校としての宗教教育や様々な教育活動を行っていくことの必要性を再認識した。</p> <p>教員アンケートの結果から、学校改革後、教育目標が目指す「育てたい子ども像」を再認識し、伝統を継続しつつ新たな教育力を高める教職員の体制作りが課題であることが分かった。また、小中高だけでなく幼稚園も含めた連携と学院一貫教育の発信が必要である。</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

最 重 点 課 題	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1. 授業力向上に向けた「分かち合い」教職員の意識改革、組織力強化	(1) 授業力の向上	① 研究研修体制…新任教員研修・研究授業強化、学年主任制、学校公開企画 ② 分掌連絡会の活性化(組織力)…組織で動く教務体制作り ③ メンバー大幅入れ替え…教員の一致団結と協力関係強化	① 教科別、新任、ICT、人権、宗教等の研究研修を実施する。学年主任制を定め、学年内で連携を図り、公開企画を行う。(判定:○、△、×) ② 分掌連絡会を定期的に開催し、情報の共有と組織力の強化を図る。(判定:○、△、×) ③ クラス担任とネイティブ教員、専科教員と連携し、学年単位や学校全体での情報の共有と協力体制の強化を図る。(判定:○、△、×)	① 結果 △ 初任者研修は、年間計画を決め実施できた。学年主任会は当初の予定より回数は少なくなってしまったが、新しい取り組みとしてスタートできた。公開授業は実施できなかった。2年後の実施を目指して、計画的に準備を進めていくことと申し送る。 ② 結果 ○ 週に一回の分掌連絡会を実施し、密な情報共有ができた。各分掌が事前に議案を検討し、資料のデータ化により職員会議の時間短縮にもつながった。 ③ 結果 ○ 一人ひとりが教員としての責任感を持ち、連携体制を確立できていた。情報交換は、職員会議や学年会の他、日々の情報交換を行う機会を多く確保した。

<p>2. 英語力強化に向けた「分かち合い」イマージョン教育のレベルアップ</p>	<p>(2) 英語力(イマージョン)強化</p>	<p>①イマージョン・スタッフ強化…中高との一層の連携(指導、協力)強化</p> <p>②イマージョン授業レベルアップと全学年への拡大…12年一貫体制展望</p> <p>③低学年イマージョン手法の確立…小学校内のコース変更ルール確定</p>	<p>①中高イマージョン教員との連携を図り、授業研究を実施し協力体制を強化する。(判定:○、△、×)</p> <p>②小中高12年間のイマージョン授業のカリキュラムを作成し、学年ごとに進度チェックを行う。(判定:○、△、×)</p> <p>③低学年のイマージョン授業の研究と進度チェックを行い、コース変更のルールを定める。(判定:○、△、×)</p>	<p>①結果 △ 事前の年間計画と児童の状況に差があり、協力体制を充実させることが難しかった。授業参観や体験授業などは数回実施できたが、校外での教員同士の研修の場があまりなく、改善が必要だと感じた。</p> <p>②結果 ○ 毎月のイマージョン会議で、授業の進捗をこまめにチェックすることができた。その他、イマージョン授業の充実に向けた意見を数多く出し合うことができた。</p> <p>③結果 △ イマージョン会議及びコース変更は実施することができた。来年度以降を見据えて、内規の作成をおこなっていく。</p>
<p>3. 学院的課題に向けた「分かち合い」2016募集100名必達の体制改革</p>	<p>(3) 学院的課題＝募集大増強(100名必達)</p>	<p>①説明会手法の見直し強化…授業紹介と成果物紹介のDVDの作成・活用</p> <p>②親密学習塾、親密英語幼稚園等との連携強化…受験生の増強促進連携</p> <p>③入学試験の抜本的見直し…カトリック校らしい「多様性」重視の入試へ</p>	<p>①説明会における訴求方法と効果の検証を行い、DVDを作成し活用する。(判定:○、△、×)</p> <p>②連携の強化する。(判定:○、△、×)</p> <p>③カトリック校における「多様性」重視の入学試験の検証する。(判定:○、△、×)</p>	<p>①結果 ○ 動画を使って子どもの活動を多く紹介した。写真よりもその場の雰囲気がよく分かり好評だった。</p> <p>②結果 ○ 併設幼稚園だけでなく、他園との教育連携を実現させた。</p> <p>③結果 ○ ペーパーテストの問題数を減らし、行動観察の比重を大きくした。また、教員の分担をテスト問題ごとに分けて、一人ひとりが受験生全員の様子を見ることができる形に変更した。多くの目で受験生をチェックできたので、今まで以上に妥当な合否判定ができた。</p>

<p>4. 幼・中高教職員間の「分かち合い」：内部進学制度見直しと教員の相互補完</p>	<p>(4) 幼・中高教職員との連携強化</p>	<p>①幼稚園⇒小学校入試のあり方改革…園長推薦制の確立と完全実施</p> <p>②小学校⇒中学校入試のあり方見直し…校長推薦制度改革</p> <p>③教員交流促進…まずイメージ、ネイティブ教員交流から</p>	<p>①園長推薦制度の策定し実施する。(判定:○、△、×)</p> <p>②校長推薦制度の策定し実施する。(判定:○、△、×)</p> <p>③小中高イメージ、ネイティブ教員の相互授業交流の実施する。(判定:○、△、×)</p>	<p>①結果 ○ 園長推薦制度を確立させることができた。内部進学の強みを生かした形になっている。</p> <p>②結果 ○ 学力テストを実施しない形の校長推薦制度を、今年度確立できた。</p> <p>③結果 × イメージ会議の際には中高からコーディネーターの教員が参加できたが、その他の目立った交流は実施できなかった。教員交流の年間計画を立て、早くに実施できる枠組みを作成する必要がある。</p>
<p>5. 宗教教育再生・強化「分かち合い」：カトリック校に相応しい全校的体制刷新</p>	<p>(5) 宗教教育再生・強化</p>	<p>①学院全体の宗教委員会の立ち上げ…園校別の課題集約からスタート</p> <p>②「宗教の時間」への教員の参画機会増強…手法・メンバー検討</p> <p>③教員に対する宗教教育実施…チャプレン就任要請に連動させて</p>	<p>①学院全体の宗教委員会の立ち上げる。(判定:○、△、×)</p> <p>②「宗教の時間」への教員の参画機会の増加する。メンバー確定し、手法を確立する。(判定:○、△、×)</p> <p>③教員への宗教教育研修の実施とチャプレン就任要請に努める(判定:○、△、×)</p>	<p>①結果 × 具体的な方針を担当者に出せなかったため、委員会の立ち上げには至らなかった。</p> <p>②結果 △ 具体的な方針を担当者に出せなかったため、授業参加の呼びかけをするにとどまった。</p> <p>③結果 × 具体的な方針を担当者に出せなかったため、研修の実施がかなわなかった。</p>